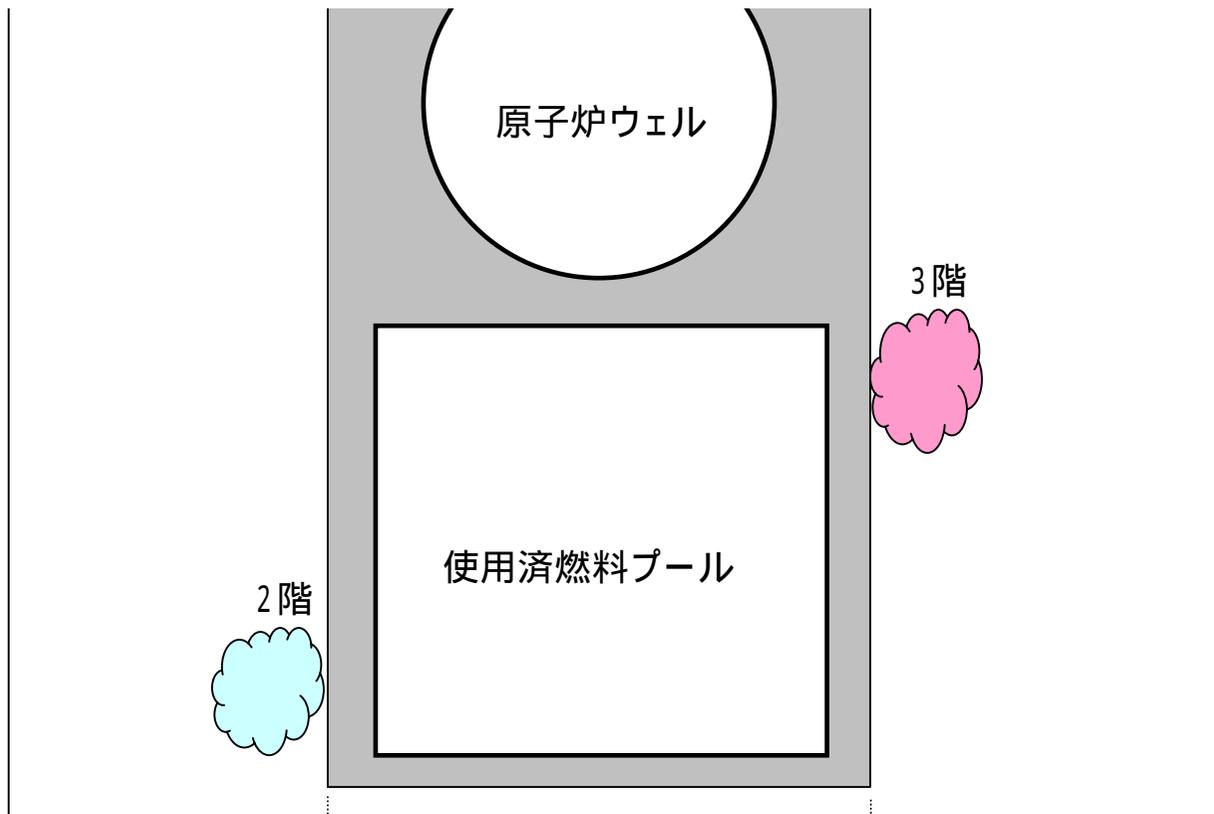


区分：（続報）

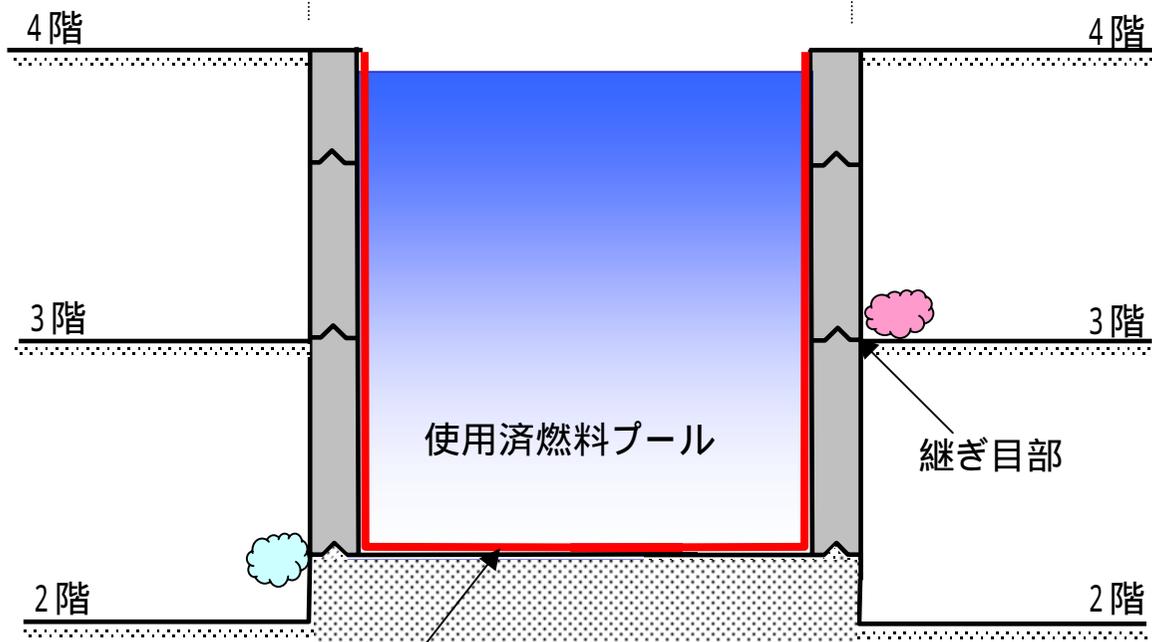
号機	7号機
件名	原子炉建屋(管理区域)内における水漏れについて
不適合の概要	<p>当所7号機については平成19年10月8日に原子炉の水張り作業を完了しておりますが、同日午後0時頃、原子炉ウェルライナーにつながる配管のレベル計内に水が溜まっていることを当直員が確認しました。（平成19年10月9日お知らせ済み）</p> <p>その後、原子炉建屋管理区域内2階のエレベータ付近の壁面コンクリート継ぎ目部に生じた微細なひびから発生した水のにじみおよび床面の水たまりについて、漏えい水のサンプリングおよび分析を行った結果、10月21日午前10時27分頃、放射性物質（コバルト60、セシウム137）の検出を確認いたしました。</p> <p>漏えい量は約6.5リットル、放射エネルギーは250ベクレル（ラドン温泉の約30cm³に相当する量）で、拭き取りによる清掃を実施いたしました。</p> <p>漏水の原因について、地震時に使用済燃料プールから溢れた水がコンクリートにしみこんだ後にじみ出たことや原子炉ウェル水がコンクリートにしみこんだ後にじみ出た可能性を含め調査することとしました。（平成19年10月21日お知らせ済み）</p> <p>（コンクリート継ぎ目部からの水のしみ出し）</p> <p>その後継続して調査を行っていたところ、7号機原子炉建屋3階北側の床面コンクリート継ぎ目部（約1cm）にわずかな水のしみ出しがあることを確認したため分析を行った結果、10月23日午後1時頃微量の放射性物質（コバルト60）を検出いたしました。</p> <p>漏えい量は約200cm³、放射エネルギーは約0.8ベクレル（ラドン温泉の約0.1cm³に相当する量）で、拭き取りによる清掃を実施いたしました。</p> <p>なお、当該漏えい水は管理区域内にとどまっており、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（ライナー検出配管フローグラスへの漏えい）</p> <p>また、原子炉ウェルライナー等からの漏えいに関する調査の一環として、原子炉ウェルライナーおよび使用済燃料プールライナーの検出配管のうちフローグラス部に水が溜まっていたものについて内面を確認し、分析を行った結果、10月23日午後1時頃、微量の放射性物質（コバルト60、セシウム137など）があることを確認いたしました。</p> <p>フローグラス部の水は、ごく微量であるとともに、液体廃棄物処理系で適切に処理され、配管の外へ漏えいすることはありません。</p> <p>使用済燃料プールの水位や使用済燃料プールライナーにつながる配管のレベル計に水漏れを示す異常は認められておりません。</p> <p>原子炉ウェル：前回流入が確認された1箇所と他の4箇所中1箇所 使用済燃料プール：13箇所中2箇所</p>

安全上の重要度 / 損傷の程度	< 安全上の重要度 > 安全上重要な機器等 / <u>その他設備</u>	< 損傷の程度 > 法令報告要 法令報告不要 調査・検討中
対応状況	<p>(コンクリート継ぎ目部からの水のしみ出し) 漏水は現在も微量ながら継続しており、原因については、地震時に使用済燃料プールから溢れた水がコンクリートにしみこんだ後にじみ出たこと、あるいは原子炉ウェル水がコンクリートにしみこんだ後にじみ出たこと等が考えられますが、引き続き、原因およびこれまでに発生した事象との関連について調査してまいります。</p> <p>(ライナー検出配管フローグラスへの漏えい) 漏水は現在も微量ながら継続しており、引き続き、原因およびこれまでに発生した事象との関連について調査してまいります。</p> <p>また、今後の調査の過程において同様の事象が確認された場合には、速やかに公表してまいります。</p> <p>なお、このコンクリート壁は、気密性・水密性を要求されるものではなく、また、ひびは微細であり構造・強度に影響を与えるものではないことから、安全上の問題となるものではありません。</p>	

【平面図】



【断面図】



-  10月23日確認箇所
-  10月21日お知らせ済み箇所

7号機 原子炉建屋使用済燃料プール概略図